

「未来の方舟 Future Vessel」

ひとりの人間が1日に必要とする80リットルの水。16年後、世界の48カ国で深刻な水不足となる予想を踏まえて、生徒が学校授業を通じて学び調べたことへの各自の思いを「80リットルの水箱」として表現。同時に「行動」を表す各自オリジナルの「オール（櫂）」を制作し、アーティストがアトリアに出現させた未来の方舟に積み込みました。

講師：池田 一

対象：川口市立西中学校1年生（136人）

授業日程：6月10日（水）、9月28日（月）、29日（火）、10月1日（木）、2日（金）、12月17日（木）

水をテーマとした写生会で制作された生徒の作品を見る池田氏



4月27日（月）

先生方とアーティストの顔合わせ・ミーティング

西中学校に初めてアーティストの池田一が訪問、先生方に「Future Vessel 未来の方舟」と題した授業概要を説明しました。先生方からは今回のテーマである「水不足」ということを、総合学習の時間なども活用し、多角的に学んでいきたいとの提案がありました。まずは例年行われている美術の写生会は「水」をテーマに実施されました。

6月10日（水）

第1回 合同授業

アーティストがこれまで手掛けたプロジェクトをスライドで紹介しながら、「アート」の持つ可能性を語り、同時に世界の抱える水環境の問題を提起。そして16年後の2025年、世界の48カ国で深刻な水不足になるとの予想をふまえ、未来への贈り物として「80リットルの水箱」を授業で制作して、池田がアトリアに作る「未来の方舟」に積み込む計画が伝えられました。

制作に向けた3つの質問

- 水はどこからきてどこへ行くのか？
- なぜ水は不足するのか？
- 16年後、またはそれに向けて自分は何ができるか？

第1回目の授業を受けての学校の取り組み

学校では総合学習の時間などを活用し、「水」を巡る様々な授業が実施されました。

- ① ユニセフからネパールで子供たちが水汲みに使用している水甕を借りての、体験学習をしました。水汲み労働の大変さ、使える水の貴重さを考える機会としました。
- ② 水道局から水に関するビデオを借りて授業で上映。川口の水についてどのような経路をたどってくるのかについても学習しました。
- ③ 学科横断的な取り組みとして、国語科では、夏休みに水に関する意見文を課題とし、2学期には弁論の形で発表しました。

このような学習と平行して、7月13～15日には赤十字関連組織を通じての募金活動が校内で実施されました。

アンケートによると、このような学習・活動を通じて91%の生徒が水に対する自分の意識や行動に変化があったとし、このことについて家族に話をした生徒も18%いました。



先生方による水箱制作手順の検討



ネパールの水甕を運ぶ体験学習の様子

7月29日（水）

先生方とアーティストの授業に関する意見交換とプレ制作

29日、先生方とアーティストの授業に関する意見交換を行いました。アーティストからは竹を使ってオール（櫂）の制作の追加提案がありました。「水箱」は気持ちを表現するものとして、「オール」は行動を象徴するものとして制作されることになりました。

80リットルの水が入る43cm立方体の実際の大きさに段ボールを組み、授業での制作のための検証を行いました。

8月21日（金）

竹の採集

制作で使用する竹を、アーティストと先生方の引率のもと有志の生徒が「神戸ふるさとの森」で採集しました。



グラウンドワーク・カワグチの西川昭三さんに、竹の採集方法を指導いただきました

9月23日（水・祝）

アーティストによる学校授業

はじめにアーティストが水に関する現状を具体的なデータを示しながら説明しました。

その後、実際に制作する「80リットルの水箱」と「オール」についてのガイダンスを行い、各自制作に取り掛かりました。制作においていかにイメージを広げられるかが大切であり、自由な発想のもとにアーティストと生徒が協働してひとつの作品を作り上げていこうとの声掛けがなされました。また、アーティストの制作は学校の一面をお借りして実施され、放課後の時間帯には希望する生徒たちが作品制作の手伝いをしました。



アーティストの作品制作は校内の渡り廊下で実施されました

11月4日（水）

アトリアでの展示

授業の成果物をアーティストの作品と共に展示しました。

12月17日（木）

アーティストによる最終授業

インフルエンザによる学年閉鎖のため、アトリアでの講評はできませんでしたが、会期後、80リットルの水箱を中学校で再び展示し、アトリアでの展示写真を映写しながらアーティストによる最終授業を行いました。



スライドを使った合同授業の風景



紐を川に見立てて複雑な流れのこと取水による水問題水紛争のことを説明

今回の授業は、美術の時間だけではなく、総合的な学習の時間も使い取り組みました。それは、テーマが美術の作品を作る以前に「環境」「水問題」に対する意識付けが必要だったからです。そのために、導入に時間をかけ、世界の水事情と私たちの生活との比較などをしながら、私たちが作品を通して表現していくこと、発信できることを考えていきました。オールとしての竹を採りに行き、そこに自分の思いを表現したり、普段の授業ならポスターという平面で表現することの多い内容を、80リットルの箱にメッセージを描いたことで立体で表現することも学びました。

この授業を通して、日頃の生活の中で水を無駄にしないように家族で話をするなど生徒の中に変化がありました。また、アートとしての表現だけではなく1学年では言葉での表現にも発展させ、「環境」をテーマに弁論大会も行いました。

インフルエンザの影響でアトリアでの展示に生徒が行けなかったことは大変残念ですが、自分の作品を一目見ようと展示期間中に親子で訪れた生徒も多く、貴重な体験ができたと思っています。

小出喜代子（川口市立西中学校 教諭）



それぞれの未来へのメッセージを込めて作品を制作しました

たくさんの思いが詰まった展示となりました

